

タクソミーといえば
EUを思い浮かべるよ



中国も策定してたんだよ

一般的な基本分類-気候変動の緩和 (COMMON GROUND TAXONOMY - CLIMATE CHANGE MITIGATION)

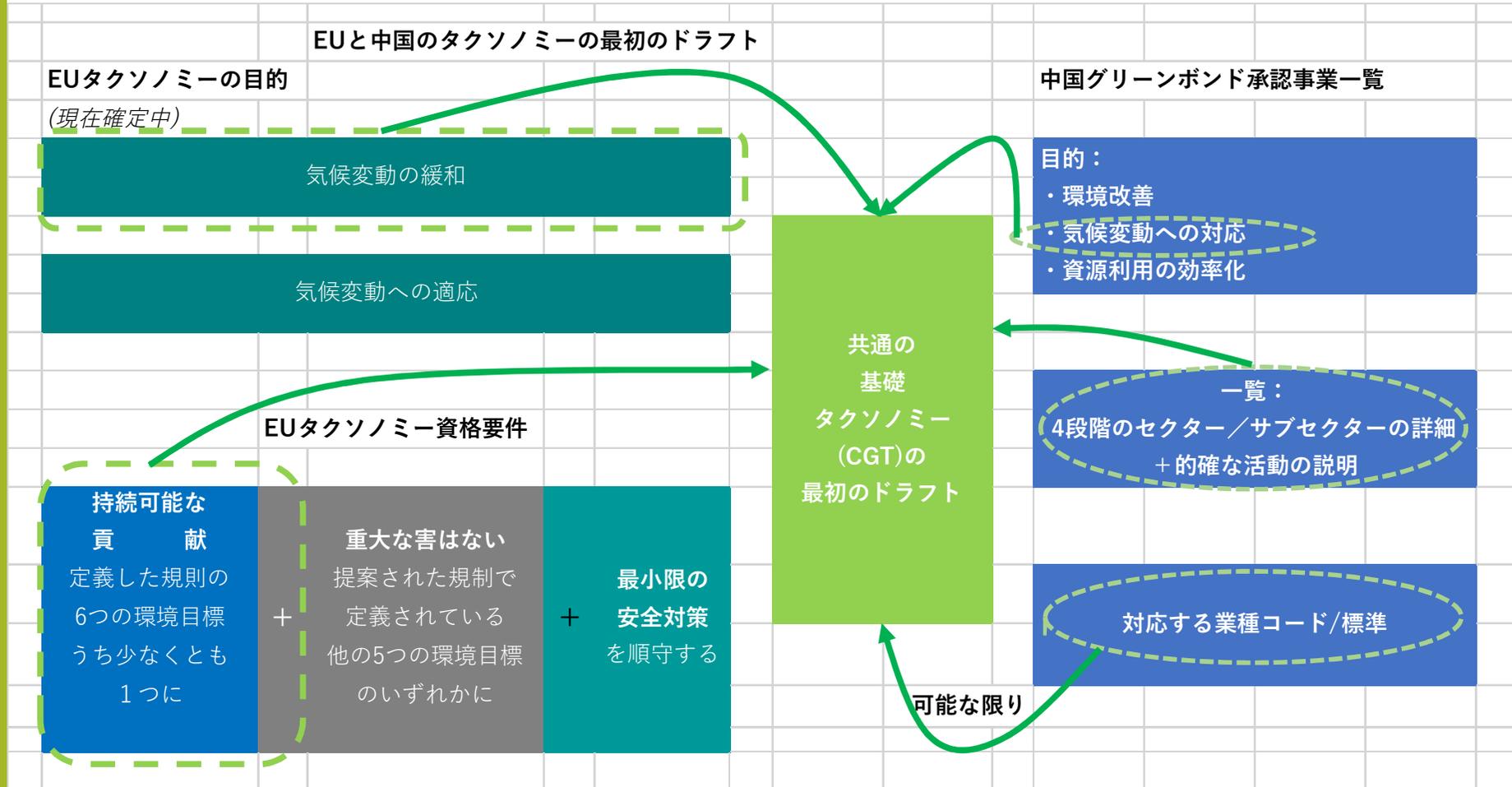
International Platform on Sustainable

IPSF Taxonomy Working Group Co-chaired by the EU and China

(EUと中国が共同議長を務めるIPSFタクソミーワーキンググループ)

Finance https://ec.europa.eu/info/sites/default/files/business_economy_euro/banking_and_finance/documents/211104-ipsf-common-ground-taxonomy-instruction-report-2021_en.pdf

簡単に概略を教えて？



(出典：International platform on Sustainable Finance 'Common Ground Taxonomy-Climate Change Mitigation'より作成)



EUと中国それぞれのタクソノミーを比較して、将来は共通化していこうという最初の分類を**Common Ground Taxonomy (CGT)**としたんだ。上図がすべてだね

EUタクソノミーの特徴は？



図の左側を見てごらん。
温室効果ガスの排出削減対策を気候変動の「緩和」、
水害対策で気候変動による悪影響を緩和する対応を
「適応」としてタクソノミーの目的としているんだ

そうだったね。中国は？



図の右側を見てごらん。
①環境改善②気候変動への対応③資源利用の効率化の3
項目がタクソノミーの目的だ

やっぱり経済市場への影響に興味あるね



真ん中にあるのが今回の2つのタクソノミーの初回ドラ
フトだよ。将来は1つにまとまるかな？

う〜ん。イデオロギーが違うからね



そだね。緑の破線を見てごらん

EUの方は、「緩和」と「持続可能な貢献」





中国の方は、「気候変動への対応」「4段階のセクター」
「対応する業種コード」だね

共通化には時間が掛りそうだね



それじゃあ少し詳しく見ていこうか

は～い



CGTの柱は、この作業の価値の重要な部分で、最初の段階は、

- (1) 中国の分類法から気候変動緩和活動を抽出
- (2) 両方の分類法のすべての活動を中立的なコードにマッピングして、より簡単に比較できるようにする。国際標準産業分類（ISIC）は、国際参照分類として使用された
- (3) 炭素排出削減または分離に大きく貢献する優先セクターの選択

の3つだよ

なるほどね。次の段階は？



第2段階は、各行の詳細な説明と技術的なスクリーニング基準を評価して、重複して6つのシナリオを各行に割り当てるんだよ

6つのシナリオ？



- ・シナリオ1：明確な重複がある領域は、重複している活動をカバーし、スコープ内/CGTレポートの目的で比較可能と見なすことができる
- ・シナリオ2：EU基準は、EUスクリーニング基準の範囲が狭いか、中国の基準よりも厳格および/または詳細である活動に、より厳格および/または詳細に割り当てられた。この場合、EU基準はCGTで、より詳細に説明されている
- ・シナリオ3：中国の基準は、EUの基準よりも範囲が狭いか、より厳格および/または詳細である活動に、より厳格および/または詳細に割り当てられた。この場合、中国の基準はCGTで、より詳細に説明されている
- ・シナリオ4：識別可能な重複は、活動範囲にある程度の整合性がある活動に割り当てられ、両方の適格基準のセットを利用することで定義できる
- ・シナリオ5/6：不明確な重複または明らかな区別：シナリオ5は、他の分類法でマッピングするのが非常に困難な活動に割り当てられた。シナリオ6は、明らかな差別化があった活動に割り当てられた



それで、どうやったの？





CGTは、国際標準産業分類（ISIC）、Rev. 4の6つの部門にわたる79の活動を分析したんだよ

6つの部門って？



- 農林漁業
 - 製造業
 - 電気、ガス、蒸気、空調の供給
 - 水供給；下水、廃棄物管理および修復活動
 - 建設業
 - 輸送業および倉庫業
- の6つの業種で、詳細は以下のとおりだよ

CGT番号と活動名	CGTの各活動には、その主要部門に応じて番号が付けられている。A1.1は、農林業部門での最初の活動である植林 活動名-シナリオに応じて、中国またはEUの命名法が使用される（たとえば、シナリオ2の活動では、通常、EUの命名法が使用される）
説明	活動の対象となる内容の説明-シナリオに応じて、中国またはEUの命名法が使用される（たとえば、シナリオ2の活動では、通常、EUの命名法が使用される）
実質的な貢献基準	活動範囲 技術的スクリーニング基準の説明
その他の注意事項	EUおよび/または中国の分類法における関連する活動内の参照番号を提供する
オーバーラップシナリオ	調査中に特定されたシナリオを提供する

そもそもの背景と目的は？



それじゃあ持続可能な金融に関する国際プラットフォーム(IPSF)の分類作業を簡単に紹介しよう

は～い



IPSFは、慣行の交換を可能にし、持続可能な金融関連の問題に関する国際協力を強化することを目的とした多国間フォーラムだよ



2020年7月、EUと中国は、両方の管轄区域が共同議長を務め、すべてのIPSFメンバーとオブザーバーに開かれた分類法に関する作業部会(WG)を開始したんだ。WGの目的は、それぞれのアプローチと結果の共通点と相違点を特定することを含め、環境的に持続可能な活動のための既存の分類法の包括的な評価を行うことで、この作業は、IPSF「**Common Ground Taxonomy (CGT)**」として知られるようになったんだ

CGTって？



EUと中国の分類法の共通点を提示する詳細な比較演習から得られたレポートだよ

目的、適格基準、活動、および閾値の観点から、両国の分類法の現在の範囲内にある領域のみを対象としているんだ。

つまり、EUでカバーされているが、中国ではカバーされていない活動、目的、または適格基準がある場合(またはその逆)は、CGTの一部じゃない。各活動の適格基準を決定するために、両方の管轄区域で準拠する基準を提示するよ。通常、これは、基準が同じ、つまり適格、その他の場合は、両方の基準を使用する必要がある

法規制は？

ないよ。これは、EUタクソミーの気候変動緩和の目的と、その目的に実質的に貢献すると考えられる活動だけが対象だ。

だから、このレポートに付随するCGT表で参照されている詳細な活動は、EUタクソミーの特定の適格基準 (Do No Significant Harm (DNSH) 基準や最小限の社会的保障措置など) として、EU分類と自動的に一致していると見なされるべきでは無いし、このレポートでは考慮されていない。CGTは、既存のEU気候委任法の気候変動適応目標をまだカバーしていない。EUタクソミーは、2022年に残りの4つの環境目標の基準を採用し、開発を続けるよ

CGTの作業の目的は？





CGTは、世界中の分類法を比較でき、相互運用できるようにするんだ。だから、アプローチ間の共通点と相違点についてより明確で透明性を提供し、持続可能な投資の国境を越えたコストを削減し、持続可能な資本の国際的な移動を拡大するための分析に貢献する可能性があるよ。将来、他の分類法とも比較できるように基礎となる確かな方法論も策定していくよ

タクソノミーはあちこちの国で策定しているんだね



そうだね。必ずしもタクソノミーが同じ必要はないんだ。共通の持続可能性の目的と原則に基づいて開発され、共通の言語を使用してそれらをより比較可能で相互運用可能にすることが大事なんだよ。これは、IPSF UNDESAのG20へのインプットペーパーに記載されているよ。

比較可能性と相互運用可能性って？



分類が比較可能で相互運用可能である場合、検証の不必要な重複を回避し、市場の信頼を高め、市場の細分化を減らし、国境を越えたグリーン資本の流れを促進することで、取引コストを削減できるんだ。CGTの目的は、最終的には、グローバルな相互運用性とグリーンファイナンスの流れを促進することだよ

そうなんだ。
それならあちこちに情報提供しないとね



そうだね～。例えば以下のような人たちかな～

- ・グリーンボンドの発行者と検証者
- ・事業と低炭素経済目標との整合性を評価しようとしている事業体
- ・活動を低炭素経済の目標に合わせる銀行や金融機関
- ・研究および学界など
- ・気候緩和金融追跡の共通原則（2015年は2021年に更新）
および気候金融の国際的定義との市場比較に関心のある
開発金融機関および報告機関
- ・独自の分類法を開発するための分析を求めている政府や
地域団体などの管轄区域
- ・他の持続可能な金融基準に取り組むための基準としてCGT
を検討している国際基準設定機関



なるほどね。じゃあ、比較可能性と
相互運用性へのCGTの貢献って何？



世界中の環境に配慮した持続可能なプロジェクトへの資本
の流入を可能にするには、相互運用性が必要なんだよ





相互運用が可能である場合、分類法は、たとえば検証/デューデリジェンスのコストを削減することにより、投資家が国境を越えて直接資本を調達するのをより簡単に支援できる。さらに、分類法がベンチマークやラベルなどの他のツールをサポートできることを考えると、分類法の相互運用性は、市場の様々なツール全体でより良い一貫性を生み出すのに役立つんだ



特に、G20 SFWGは、分類法を含む持続可能性の目標に投資を合わせるためのアプローチのグローバルな比較可能性と相互運用性を改善する方法を検討しているんだ

わかったよ～



ところで、そもそもなんだけど、EUと中国のタクソノミーの開発プロセスの経緯を教えて



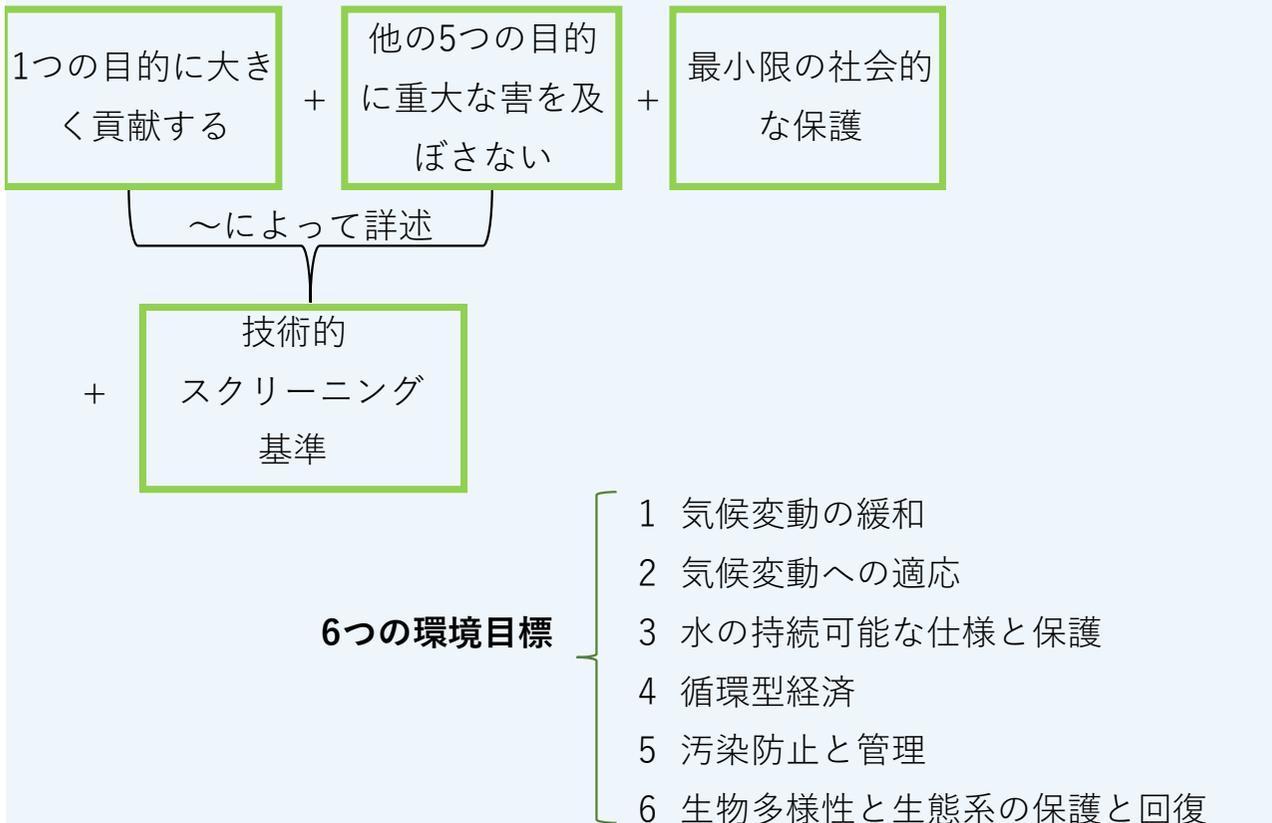
2016年12月、EUは、持続可能な金融に関する包括的なEUロードマップの作成を支援するために、持続可能な金融に関するハイレベル専門家グループ(HLEG)を設立したんだ。HLEGプロセスは、2018年1月に「持続可能な欧州経済への融資」という報告書を発行したんだ。この報告書は、優先行動として「EUの持続可能性タクソノミーの確立」を推奨している



2018年3月、EUは持続可能な成長への資金提供に関する行動計画を採択し、持続可能な投資に向けて民間資本を動員し、透明性を高め、気候変動と環境悪化のリスクを管理するための包括的なEUレベルの戦略を概説した。行動計画の10の詳細な行動に基づいて、EUは2018年5月に、他の立法イニシアチブの中でも、グリーンで持続可能な活動のEUタクソミーを作成することを提案したんだよ

EUタクソミー

タクソミーに含まれるためには、経済活動は以下の条件を満たす必要がある；





これにより、市民社会、学界、企業、金融部門の35人のメンバーとオブザーバーで構成されるEU技術専門家グループ (EU TEG) が設立され、EUの気候目標とSDGsの達成を支援するため、とりわけEUタクソノミーの経済活動と環境パフォーマンス要件のリストが作成されたんだよ



そして、2020年3月、EU TEGは、タクソノミーに関する最終報告書とその技術付録を含むいくつかの報告書を公式に発表したんだ

それから？



2020年6月18日、EU共同議員 (欧州議会および理事会) は、EU官報 (EUタクソノミー規則) に掲載されたEUタクソノミー (EUタクソノミー規則) を開発するための立法の枠組みを採択し、7月12日に発効したんだ。

2020. EU TEGからのアドバイスは、2021年6月4日に採択された欧州委員会気候委任法 (レベル2法) に通知し、気候変動緩和および気候変動適応の目的のための分類適格要件を満たすためのいくつかの優先経済活動の技術的スクリーニング基準を定義したよ

それで？





2020年10月に、持続可能な金融に関するEUプラットフォームが設立され、2020年9月11日に任務が終了したEU TEGの作業を引き継いだよ。他のタスク12の中でも、数か月以内に、EUプラットフォームは、気候を超えた環境目標に関する技術的スクリーニング基準について委員会に助言し、これらの残りの目標に対する開発を報告していくよ



EUタクソノミーは、パリ協定に沿って、金融システムが低炭素気候回復力のある経済に向けて資本を改めて方向付けすることを支援するんだ

わかったよ～



じゃあ、次は中国のタクソノミーの経緯を教えて



中国政府は2018年に国の金融規制構造を再編し、中央銀行(中国人民銀行-PBOC)と3つの委員会(中国銀行監督管理委員会-CBRC、中国保険監督管理委員会-CIRC、中国証券監督管理委員会-CSRC)を構成した。

それぞれ商業銀行、保険会社、資本市場参加者を監督しているね。CBRCとCIRCは合併して中国銀行保険規制委員会(CBIRC)となり、前身のCBRCとCIRCのときよりいくつかの規則制定とマクロ健全性を放棄した

CBIRCが設立されたもう1つの理由は、中国の銀行の事業運営がより多様化するにつれて、CBRCとCIRCの両方の規制活動をより適切に調整することだった。

一方、中国国家発展改革委員会 (NDRC) は、投資の全体的な管理を担当し、他の機関と協力して投資プロジェクトの承認における政府の権限を決定し、政府が承認した設備投資プロジェクト一覧を作成する役割を担っている。そして、持続可能な開発戦略の実施を促進する

それで～？

中国の金融システムの「グリーン」改革は、政府省庁によって様々な視点から共同監督され、様々なペースで調整されている。

2012年、CBIRCは、グリーンクレジット統計フォームを使用して、環境保護および循環経済活動に関連するローンのデータを収集し、銀行ローンの環境的および社会的リスクを監視し始めた。

2015年に、グリーンファイナンス商品を拡大して投入するために、PBOCは、グリーンボンド発行管理規則とともに、グリーンボンド承認プロジェクト一覧(2015)の最初のバージョンを公開した。

2019年、NDRCはグリーン産業指導一覧(2019)を発行した。これは、経済全体にわたるグリーン産業の行動範囲を明確にすることを目的としている。だから、業界一覧とそれに関連する技術基準の説明文書に基づいて、関連機関は、グリーン産業の発展を促進するための投資、価格設定、予算、および課税に関する政策を策定することができる。

2020年、PBOCは、NDRC一覧に基づいて独自のグリーン統計システムを構築し、24の主要な中国の銀行からグリーンローンに関するデータを収集した





CBIRCのグリーンクレジット統計フォームは最近更新されたけど、業界一覧とは少し異なるんだ



2021年4月21日、金融規制当局間でグリーンの定義を調整するために、PBOCは、NDRCおよびCSRCとともに、グリーンボンド承認プロジェクト一覧(2021年版)の修正版を共同でリリースした。これは、国内のグリーンの定義を統一するための中国の取り組みにおけるもう1つの大きな進展だ。複数の既存のグリーンボンド一覧の統合は、今後、すべてのボンドの「グリーン」属性の識別が、タイプやボンド発行した市場に関係なく更新され、国内で統一した一覧の基準となる



グリーンボンド承認プロジェクト一覧(2021年版)(中国版タクソノミー)は、中国の活動およびプロジェクトレベルで、最新の統一された明確なグリーン定義となっている

両方のタクソノミーの経緯はわかったよ



次は、両方のタクソノミーを比較する目的について説明して



了解。まずEUを説明しよう

EUタクソノミーには、以下に述べる6つの環境目標があり、そのうち欧州委員会は、気候変動の緩和と適応に関する最初の2つの項目について実質的な貢献をしなければならないので、技術的スクリーニング基準を採用している。残りの4つの環境目標の技術的スクリーニング基準は、現在いくつかの優先活動のために開発中であり、2022年に公開される予定だよ。EUタクソノミ規則の第10条から第15条は、各環境目標に関連する実質的に貢献すべき概念を定義しているんだ。要約すると以下の通りだよ



どれどれ？



1. 気候変動の緩和：
 - パリ協定に沿った長期的な気温目標と一致する気候システムへの危険な人為的干渉を回避またはGHG除去の増加またはGHGを削減するレベルでGHGの安定化に実質的に貢献する活動
2. 気候変動への適応：
 - 現在/将来の気候が経済活動に及ぼす悪影響のリスクを大幅に軽減する解決策、または人、自然、資産への悪影響を増大させることなくその悪影響を大幅に軽減する策
3. 水と海洋資源の持続可能な利用と保護：
 - 地表水、地下水、海洋水の良好な環境状態の達成、またはすでに良好な水域（地表、地下、海洋）の劣化の防止に大きく貢献する活動



- 
4. 循環型経済への移行：
活動は、より効率的な方法で資源を使用し、製品の耐久性と寿命/使用を増やし、リサイクルの可能性と再利用を増やし、実質的に危険な内容を減らし、廃棄物処理を最小限に抑える
 5. 汚染防止と管理：
大気/水/土地への汚染物質を実質的に防止/削減する、または空気/水/土壌の質を改善する、または汚染物質を浄化する活動
 6. 生物多様性と生態系の保護と回復：
生物多様性の保護、保全、回復、生態系の良い状態の達成、またはすでに良い状態にある生態系の保護に大きく貢献する活動

次は中国ね！



中国のグリーンタクソミーは、環境改善、気候変動への対応、およびより効率的な資源利用を支援する経済活動のために提供される金融サービスを指すんだ。これらの経済活動には、環境保護、省エネ、クリーンエネルギー、グリーン輸送、グリーンビルディングなどの分野でのプロジェクトの資金調達、運用、リスク管理が含まれるよ。だから、中国のグリーンタクソミーの環境目標は、環境改善、気候変動への対応、および資源利用の効率化だ



両者のタクソミーの環境目標は、図のとおり大まかにマッピングできるけど、細かい部分では違いがあるよ

EUの目標	中国の目標
気候変動の緩和	気候変動への対応
気候変動への適応	
水と海洋資源の持続可能な利用と保護	環境改善 (汚染防止と生態系保全)
生物多様性と生態系の保護と回復	
循環型経済への移行	より効率的な資源利用 (循環型経済、 廃棄物リサイクル、汚染防止)
汚染の防止と管理	

似ているけど微妙に違うんだね

タクソノミーは法的義務はあるの？

EUの場合は、以下の3つかな

1. EU加盟国及びEUが公的措置、基準、ラベルを設定する場合
2. 持続可能な金融商品を利用できるようにする金融市場参加者
3. 非財務報告指令 (NFRD) に基づく大企業 (500人以上の従業員)

これは以下を含む：

- 非財務事業、タクソノミーに沿った活動に関連する売上高、設備投資、および運用コストに関する重要業績評価指標の報告
- 金融事業 (大手銀行、資産運用会社、投資会社、保険/再保険事業)、タクソノミーに沿った活動に起因する重要業績評価指標 (追加の規制法で指定) の開示





現在、EUタクソノミーとその開示要件は、すべてのグリーンボンド発行者に義務付けられているわけではないよ。
だけど、欧州委員会は2021年7月に、自主的なEUグリーンボンド基準の立法案を発表したんだ。この基準では、発行者は、債券によって調達された資金(収益)の100%を、EUタクソノミー要件を満たす経済活動に割り当てる必要があるんだ

中国の方は？



中国版は、すべての金融機関、企業、国有企業、第三者の評価機関、規制機関を含むすべてのグリーンボンド発行者に義務付けられているよ。
グリーン企業、資産、プロジェクトに対して、グリーンボンドの対象となるプロジェクトを明確に定義し、グリーンウォッシュ(グリーンボンドによる非グリーンプロジェクトの資金調達)の可能性を減らし、グリーンボンドの信頼性を高め、評判を高め、国内のグリーンボンド市場をさらに規制し、資金を直接調達することが目的なんだ。発行者は、中国タクソノミーを使用して、グリーンボンドターゲットプロジェクトに強力な環境上のメリットがあることを示す必要があるよ

開示義務とかあるのかな？





EUのタクソノミー開示要件は、金融市場の参加者と大企業(金融および非金融事業を含む)の2つの異なるタイプの関係者に適用されるよ

EUタクソノミー規則の第5～第7条に従い、気候目標に関する2022年半ばの時点で、すべての金融市場参加者は、製品を「環境的に持続可能な」または「環境特性の促進」として販売する場合、以下を開示する必要がある



- 1) 金融商品の基礎となる投資が寄与するタクソノミーの環境目標に関する情報
- 2) EUタクソノミーの下で環境的に持続可能と見なされる経済活動への投資が、どのように、そしてどの程度行われるかについての説明



製品が上記のカテゴリの1つとして販売されていない場合、金融市場の参加者は、「この金融製品の基礎となる投資は、環境的に持続可能な経済活動に関するEUの基準を考慮していない」ことを示す必要があるよ



EUタクソノミー規則の第8条に続いて、非財務報告指令の範囲に基づく大規模な非財務事業は、気候目標について2022年の時点で段階的に開示する必要がある

- 1) 売上高におけるグリーンで持続可能な活動の割合
- 2) 資本的支出または運用コストにおけるグリーンで持続可能な活動の割合



金融機関や企業は、2023年の初めに、他の4つの環境目標に関する情報の開示を完了する必要がある

中国版の開示要件は？



中国版は、主に金融機関や企業が本土市場でグリーンボンドを発行するために使用する。さまざまなタイプのグリーンボンドの開示要件を以下の表に示すよ。

中国のグリーンボンド市場におけるコンプライアンスの実証	グリーンファイナンス債券	グリーンエンタープライズ債券	グリーン社債	グリーン債務融資手段
スーパーバイザー	PBOC	NDRC	CSRC	NAFMII
グリーンプロジェクトの適格性を決定する文書	中国の分類法（2021）			
収益の管理	専用アカウント	不特定	専用アカウント	専用アカウント
プロジェクトの評価と評価	サードパーティによる検証を推奨	NDRCによる評価と承認	サードパーティによる検証を推奨	サードパーティによる検証を推奨
情報開示	収益の使用に関する四半期ごとの開示と年次報告（PBOCへ）	不特定	年次開示	年次開示；収益の使用に対する変更を公に報告する

次は、調整/適格性を定義する方法を教えて



 EUタクソノミーでは、その活動に技術的ふるい分け基準が設定された委任法に含まれている場合、その活動は「タクソノミーに適合」となる。これは、活動がタクソノミーの「範囲内」であることを意味するんだ

 グリーンとして報告されるタクソノミーの調整は、次の3つのステップのプロセスを踏むよ

-  1. 活動は、6つの環境目標の少なくとも1つに「実質的な貢献」をしなければならない。各目的に適用される実質的な貢献は、規制の第10～15条で定義されていて、技術的スクリーニング基準は、規制に付随する委任法で明確に特定されている。現時点では、最初の2つの環境目的である緩和と適応のみ
2. 同時に、調整された経済活動は、他の5つの環境目標のいずれにも重大な害を及ぼさないようにする必要がある。これは、補足的な委任法で定義されている重大な危害を加えない(DNSH)技術的スクリーニング基準に沿ったものだ。これらの活動基準は、最初の2つの環境目標に大きく貢献している



3. 最後に、EUタクソノミー規則の第18条で定義されている最低限の保護措置を満たさなければならない。これは、労働における基本的原則と権利に関する国際労働機関の宣言および国際人権法案で特定された8つの基本的条約において、OECD多国籍企業ガイドラインおよび国連のビジネスと人権に関する指導原則(定められた原則と権利を含む)との活動の整合性を確保するために必要なんだ



第10条で定義されている気候変動緩和への実質的な貢献は、「その活動が、気候システムへの危険な人為的干渉を防止するレベルで、大気中の温室効果ガス濃度の安定化に実質的に貢献する場合、プロセスの革新や製品の革新を含む、温室効果ガス排出の回避または削減、あるいは除去の増加を通じたパリ協定」である



さらに、技術的及び経済的に実現可能な低炭素代替案がない経済活動は、温度上昇を1.5°Cに制限する経路と一致する気候中立経済への移行を支援する気候変動緩和に実質的に貢献するものとみなされる。温室効果ガス排出量、特に固体化石燃料からの排出量を段階的に廃止することを含む、産業革命前のレベルを上回り、その活動が次の場合：(a) セクターまたは業界で最高のパフォーマンスに対応する温室効果ガス排出レベルを有する (b) 低炭素代替案の開発と展開を妨げない (c) 炭素集約型資産の経済的寿命を考慮すると、それらの資産のロックインに繋がることはない(いわゆる「過渡的」活動)

CGTでの両方の比較は？



実質的な貢献は、タクソノミーの中心的な機能であり、EUタクソノミー気候委任法に含まれている技術的振り分け基準と、以下に示すCGTでの比較に使用されるものによってさらに定義されるよ



上記のステップ2と3は、この文書に示されているCGTの範囲内にあるよ

グリーン活動を特定するためのEU分類プロセス

貢 献 定義した規則の 6つの環境目標 うち少なくとも 1つに	重大な害はない 提案された規制で 定義されている 十 他5つの環境目標 のいずれかに	最小限の 十 安全対策 を順守する
--	--	-------------------------

中国の方は？





中国分類法は、さまざまなセクターおよびサブセクターの下で適格な経済活動およびプロジェクトの詳細な「ホワイトリスト」を提示している。それは、国内市場で利用可能な最良の低排出でクリーンな生産技術策について明確であり、したがって「技術中立」ではない。行動は、行動がリストに含まれている場合にのみ資格を得ることができる

次の基準を満たすと評価された場合に中国タクソミーに含まれる行動

1. 3つの環境目標の1つ以上を提供
2. グリーン産業指導一覧(2019年版)の説明文に記載されている要件と、それに対応する中国タクソミーの「指示/条件」に合わせる
3. 科学に基づいた一貫した一連の対策を順守
4. 中国の現在の開発段階を尊重
5. 関連する安全、環境保護、品質に関する規制と政策を遵守。
また、タクソミーで参照されている政策文書と標準仕様は最新バージョンであり、有効期間内である



わかったよ～



今度は、法的な枠組みについて教えてよ





EUタクソノミー規則の原則を設定する文書(またはレベル1のテキスト)は2020年6月18日に発行され、EU官報(OJ)に発行されてから20日後に発効した。タクソノミー規則により、欧州委員会は、詳細な要件を提供する次の「委任法」(またはレベル2規則)を採用することができるんだ



- ・2021年6月4日に共同議員による精査のために正式に採択された最初の委任法：気候目標に実質的に貢献するいくつかの優先活動を特定するための技術的スクリーニング基準
- ・残りの目的(目的3~6)の2番目の委任された行為は2022年に公開される
- ・さらなる委任法により、今後、セクターと基準が追加される
- ・2021年7月6日に採択された、タクソノミー規則の第8条を補足する追加の委任法。これは、EUタクソノミーに関する大企業の開示要件を詳述している



PBoC、NDRC、CSRCは共同で、中国タクソノミー：グリーンボンド承認プロジェクト一覧(2021年版)をリリースした。これは2021年7月1日に全国的に発効した。これは、中国のグリーンボンド市場の健全な成長を可能にするために、3つの管轄区域によって発行された情報開示およびグリーンボンド発行ガイドラインと連携する

なるほど～分類の枠組みは？



EUタクソノミーは、主にNACE（欧州共同体における経済活動の統計的命名法）の分類システムに基づいているよ

1.林業	1.1. 植林
	1.2. 極端な出来事後の再植林と自然林の再生を含む、森林の修復と回復
	1.3. 森林管理
	1.4. 保全林業
2.環境保護と修復活動	2.1. 湿地の回復
3.製造	3.1. 再生可能エネルギー技術の製造
	3.2. 水素の製造および使用のための機器の製造
	3.3. 輸送用の低炭素技術の製造
	3.4. 電池の製造
	3.5. ビル用エネルギー効率機器の製造
	3.6. 他の低炭素技術の製造
	3.7. セメントの製造
	3.8. アルミニウムの製造
	3.9. 鉄鋼の製造
	3.10. 水素の製造
	3.11. カーボンブラックの製造
	3.12. ソーダ灰の製造
	3.13. 塩素の製造
	3.14. 有機基礎化学品の製造
	3.15. 無水アンモニアの製造
	3.16. 硝酸の製造
	3.17. 一次形態のプラスチックの製造

4. エナジー	4.1. 太陽光発電技術を利用した発電
	4.2. 集光型太陽光発電（CSP）技術を使用した発電
	4.3. 風力発電による発電
	4.4. 海洋エネルギー技術による発電
	4.5. 水力発電による発電
	4.6. 地熱エネルギーによる発電
	4.7. 再生可能な非化石ガスおよび液体燃料からの発電
	4.8. バイオエネルギーからの発電
	4.9. 送電と配電
	4.10. 電気の貯蔵
	4.11. 熱エネルギーの貯蔵
	4.12. 水素の貯蔵
	4.13. 輸送およびバイオリキッドで使用するためのバイオガスおよびバイオ燃料の製造
	4.14. 再生可能および低炭素ガスの送配電ネットワーク
	4.15. 地域冷暖房の分布
	4.16. 電気ヒートポンプの設置と操作
	4.17. 太陽エネルギーからの熱/冷熱と電力のコージェネレーション
	4.18. 地熱エネルギーからの熱/冷房と電力のコージェネレーション
	4.19. 再生可能な非化石ガスおよび液体燃料からの熱/冷却および電力のコージェネレーション
	4.20. バイオエネルギーからの熱/冷熱と電力のコージェネレーション
	4.21. 太陽熱暖房からの熱/冷房の生成
	4.22. 地熱エネルギーからの熱/冷気の生成
	4.23. 再生可能な非化石ガスおよび液体燃料からの熱/冷却の生成
	4.24. バイオエネルギーからの熱/冷気の生成
	4.25. 排熱を利用した熱/冷房の生成

5.上下水道、 廃棄物管理および修 復	5.1. 集水、処理および供給システムの建設、拡張および運用
	5.2. 水の収集、処理、供給システムの更新
	5.3. 排水の収集と処理の建設、拡張、運用
	5.4. 排水の収集と処理の更新
	5.5. 発生源分離画分における無害廃棄物の収集と輸送
	5.6. 下水汚泥の嫌気性消化
	5.7. バイオ廃棄物の嫌気性消化
	5.8. バイオ廃棄物の堆肥化
	5.9. 非有害廃棄物からの材料回収
	5.10. 埋立地ガスの回収と利用
	5.11. CO2の輸送
	5.12. CO2の地下永久地質貯留
6.輸送	6.1.旅客都市間鉄道輸送
	6.2.貨物鉄道輸送
	6.3.都市および郊外の輸送、道路旅客輸送
	6.4.パーソナルモビリティデバイスの操作、サイクルロジスティクス
	6.5.バイク、乗用車、小型商用車による輸送
	6.6.道路による貨物輸送サービス
	6.7.内陸旅客水運
	6.8.内陸貨物水輸送
	6.9.内陸水上旅客および貨物輸送の改造
	6.10.海上および沿岸の貨物水輸送、港湾運営および補助活動のための船舶
	6.11.海と沿岸の旅客水輸送
	6.12.海上および沿岸の貨物および旅客水輸送の改造
	6.13.パーソナルモビリティ、サイクルロジスティクスのためのインフラストラクチャ
	6.14.鉄道輸送のためのインフラストラクチャ
	6.15.低炭素の道路輸送と公共交通機関を可能にするインフラストラクチャ
	6.16.低炭素水輸送を可能にするインフラストラクチャ
	6.17.低炭素空港インフラ

7.建設および不動産活動	7.1.新しい建物の建設
	7.2.既存ビルのリノベーション
	7.3.エネルギー効率機器の設置、保守、修理
	7.4.建物内の電気自動車用充電ステーションの設置、保守、修理（および建物に取り付けられた駐車スペース）
	7.5.測定、規制のための機器および装置の設置、保守、修理、建物のエネルギー性能の制御
	7.6.再生可能エネルギー技術の設置、保守、修理
	7.7.建物の取得と所有権
8.情報とコミュニケーション	8.1.データ処理、ホスティング、および関連する活動
	8.2. GHG排出削減のためのデータ駆動型ソリューション
9.専門的、科学的および技術的活動	9.1.市場調査、開発、革新に近い
	9.2. CO2の直接空気回収のための研究、開発、革新
	9.3.建物のエネルギー性能に関連する専門サービス

中国の方は？



中国タクソノミー(2021)は、4つのレベルの分類構造を持ち、6つのカテゴリと合計204の活動が含まれているよ

6つのカテゴリ	セクター分類	セクター仕様	プログラム
1. 省エネおよび環境保護産業	1.1 エネルギー効率の改善	14 アイテム	62 のプログラム
	1.2 持続可能な建物		
	1.3 汚染防止		
	1.4 節水と型破りな水資源		
	1.5 資源の総合活用		
	1.6 グリーン輸送		

2. クリーンな生産産業	2.1 汚染の防止と処理	8 アイテム	19 のプログラム
	2.2 グリーン農業		
	2.3 資源の包括的利用		
	2.4 節水、および非従来型の水資源の効率的な使用		
3. クリーンエネルギー産業	3.1 エネルギー効率の改善	4 アイテム	26 のプログラム
	3.2 クリーンエネルギー		
4. エコロジーおよび環境関連	4.1 生態系農業	5 アイテム	28 プログラム
	4.2 生態学的保護と建設		
5. インフラストラクチャの持続可能なアップグレード	5.1 エネルギー効率の改善	11 アイテム	38 のプログラム
	5.2 持続可能な建物		
	5.3 汚染防止		
	5.4 節水と非従来型の水資源		
	5.6 生態学的保護と建設		
6. グリーンサービス	6.1 コンサルティング	6 アイテム	31 のプログラム
	6.2 運用管理サービス		
	6.3 監査、検査および評価プロジェクト		
	6.4 監視と検出		
	6.5 技術製品の宣伝と認証		



活動ごとに、中国タクソノミーの分類構造は「リスト中」のアプローチを採用しており、中国の産業分類システムに直接リンクされていない。例示は下の表だよ

カテゴリー	セクター分類	セクター仕様	プログラム	説明/条件
1. 省エネおよび環境保護産業	1. 2 持続可能な建物	1. 2. 1 グリーンビルディングマテリアル	1. 2. 1. 1 グリーンビルディング材料の製造	省エネ壁材、外壁断熱材、省エネガラス、プレハブ建築部品、生コンクリート、生モルタルなどのグリーン建築材料・製品の製造・消費。製品の特性と技術仕様は、グリーン建築材料/製品の国内および産業関連の技術要件を満たす必要があります。外壁用のガラス製品は、光害と都市のヒートアイランド効果を低減するものとします。

ようやく本題のCGTに入れるね



分析の範囲から教えて



まずは、目的とスクリーニング基準について説明しよう。EUの観点から、CGTのこの初期分析は、気候緩和の目的と、実質的な貢献を分析するためのすべての対応する技術的スクリーニング基準をカバーしている。分析では、各ラインの各技術的振り分け基準と、関連する場合は他の該当するEU規制を詳細に調べたよ





適応の目的、重大な危害を加えないこと、最小限の社会的セーフガードについては説明していないんだ



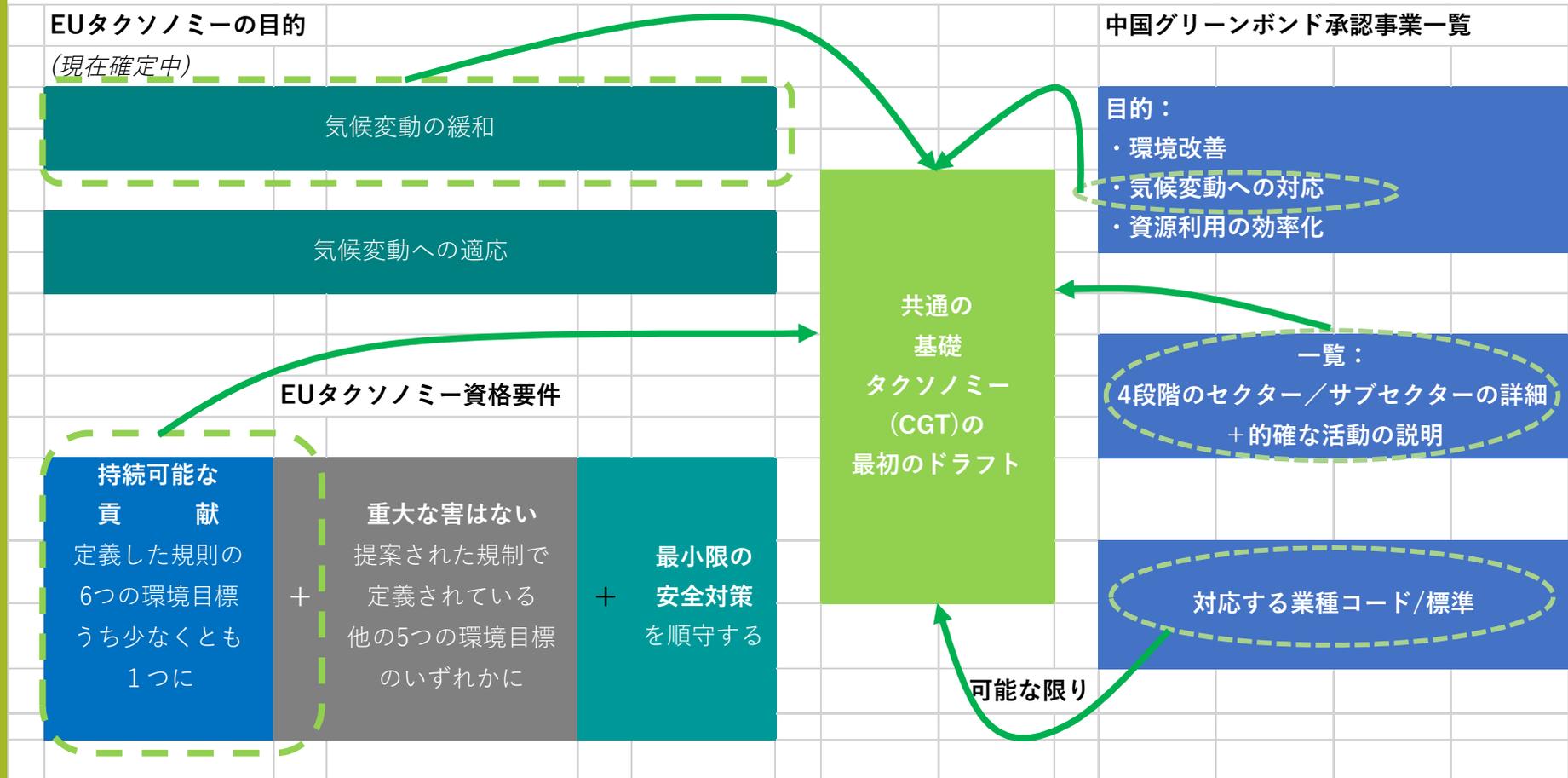
中国タクソノミーで指定されている活動は、その3つの環境目標すべてを対象としているけど、EUのように対応する目標にマッピングされていない。両方のタクソノミーを評価する必要があることを考えると、気候変動の目標は、気候変動の緩和というEUの目標にマッピングされているため、包括的にカバーされた



中国タクソノミーは、4つのレベルの粒度と、それぞれの説明をカバーしている。グリーン産業指導一覧(2019年版)の注釈に記載されている要件と、それに対応する中国版の「指示/条件」は、EUの活動の説明と技術的なスクリーニング基準に照らして分析した。中国におけるこれらの関連する規制と規範は、比較可能性をある程度詳細に理解するために、最善の努力を行った



ポンチ絵に示すと以下の通りだ



1ページ目の概略図だね



次は、優先セクターについてだよ。分析の前に、CGTの最初の反復に焦点を当てるために、排出レベルに基づいて最も影響の大きい部門を特定するための分析がおこなわれた

ISIC	レベル1EU分類	レベル1中国	優先度
A.農林業と漁業	1. 林業	4. エコロジーおよび環境関連セクター	優先度が高い
C.製造	3. 製造	1. 省エネおよび環境保護産業 3. クリーンエネルギー産業	一部のサブセクターに優先順位を付ける
D.電気、ガス、蒸気、エアコンの供給	4. エネルギー	3. クリーンエネルギー産業 5. インフラストラクチャの持続可能なアップグレード	優先度が高い
E.給水; 下水道廃棄物の管理と修復活動	5. 給水、下水道、廃棄物管理および修復	1. 省エネおよび環境保護産業 2. クリーンな生産産業	廃棄物=優先度が高い 水=優先度が低い
F.建設	7. 建設および不動産活動	1. 省エネおよび環境保護産業 5. インフラストラクチャの持続可能なアップグレード	優先度が高い
H.輸送と保管	6. 輸送	5. インフラストラクチャの持続可能なアップグレード	優先度が高い
J.情報とコミュニケーション	8. 情報とコミュニケーション	6. グリーンサービス	含まれていない
M.専門的な科学のおよび技術的活動	9. 専門的、科学のおよび技術的活動	6. グリーンサービス	含まれていない
	2. 環境保護および回復活動		含まれていない



次は、セクションマッピング。世界中でISCI(国際標準産業分類)は国の活動分類として使用しているかISCIから派生している。NACEと呼ばれるEUで使用される経済活動の統計的分類は、すべての経済活動のISICから導出される。中国の国家経済活動の産業分類(ICNEA 2017)も、国連ISICRev. 4から派生しているんだ



共通の分類システムへの参照により、一方のタクソノミーを使用して他方を比較するのではなく、ISCIに基づいてタクソノミーを比較することができた。また、2つの分類法の活動範囲に違いがある場合は、中立的な方法で活動をグループ化することにも役立った。例えば、多くの建設活動は、建設セクター内または関連する個々のセクター内に分類できる(廃棄物処理施設の建設など)

課題と解決策があるんだよね



ISIC(Rev 4.)は有用だけど、多くの部門や活動において、すべてを比較対象とすることはできない。特に、水素または炭素の回収、利用、貯留(CCUS)等の潜在的に拡張性のある新技術の場合に当てはまる。産業活動は、環境目的ではなく経済活動を対象とすることを目的としている。つまり、「電力の生成、送電、配電」は、ISIC内で発電に利用できる最も細分化したレベルだが、使用される燃料の種類は次のとおり、カバーされていない



このため、マッピングは、セクションおよび部門レベルで ISIC に従うけど、下の表に示すように ISIC を超えている

ISICセクション	ISIC部門	グループ	クラス	ISICを超えて
D、電気、ガス、蒸気、エアコンの供給	35、電気、ガス、蒸気、エアコンの供給	351、発電、送電および配電	3510、発電、送電および配電	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋エネルギー技術による発電 ・水力発電による発電 ・太陽光発電技術を使用した発電
A、農業、林業、漁業	02、林業と伐採	021、造林およびその他の林業活動	0210、造林およびその他の林業活動	<ul style="list-style-type: none"> ・植林 ・森林管理 ・森林の修復と回復

なるほどね～



じゃあ次はシナリオ分析の方法について教えて



マッピングが完了すると、各ラインの詳細な説明と技術的なスクリーニング基準が比較され、比較可能性の観点からの特性に基づいたシナリオで各ラインが割り当てられるんだ



この方法論により、タクソノミーを変更する必要がなく、タクソノミーが他の標準や法律を独自の基準と同等に受け入れる必要もなく、分析することができたんだよ



これは、CGTの中心的な基盤なんだ。つまり、共通の根拠は、いずれかのタクソノミーに小さな変更が加えられた場合にさらに共通の根拠が見つかる可能性があるというよりも、現在存在するものに基づいているということだよ。

ふ～ん。シナリオって6つあるんだっけ？



シナリオ1：明確な重複がある領域



評価された両者のタクソノミーの一部の活動には重複があり、範囲内/CGTレポートの目的で比較可能である。これらは、これ以上分析する必要はほぼないよ。例としては、風力発電からの発電かな

シナリオ2：EU基準は、より厳格および/または詳細

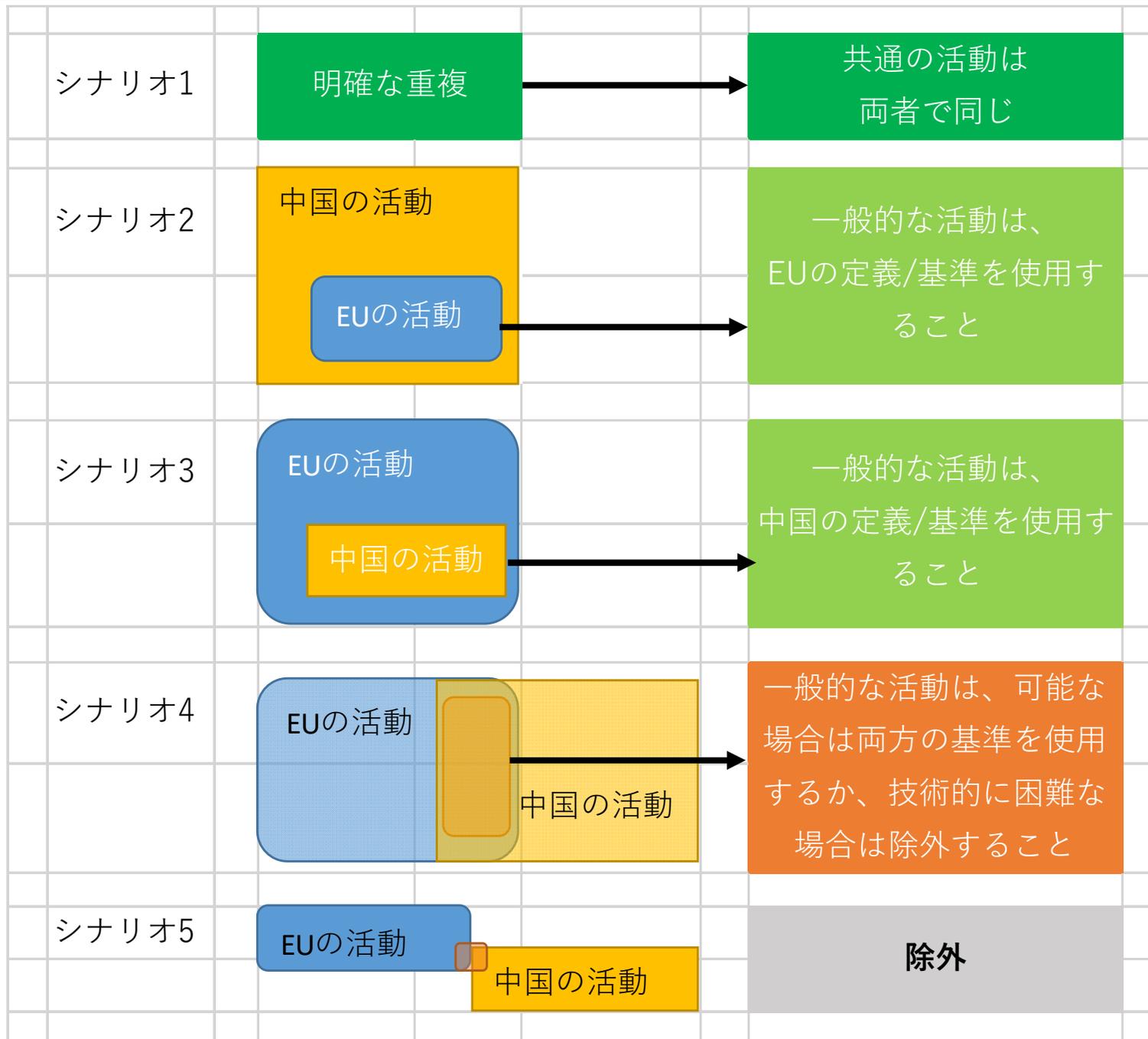


シナリオ2は、位置づけが明確であるが、EUのスクリーニング基準が中国の基準よりも範囲が狭いか、より厳格および/または詳細である活動の場合だね。例としては、EUが特定の定量的スクリーニング基準をプロジェクトに基準しているのに対し、中国の基準は本質的に定量的ではない水力発電からの発電かな

シナリオ3：中国の基準は、より厳格および/または詳細



シナリオ3は、位置づけが明確であるが、中国の基準（分類法自体または関連する産業基準および規制で提唱されている）がEU基準よりも範囲が狭いか、より厳格および/または詳細である活動の場合だね。シナリオ3のすべての活動はCGTに含まれるよ



シナリオ4：識別可能な重複

シナリオ4は、活動の範囲がある程度一致している場合だね。位置づけと重複を理解するために追加の作業が行われた後、いくつかのシナリオ4の活動がCGTに含まれた。ただし、基準全体が明確になっていないため、それらの比較可能性を評価することはできなかった。その結果、両者の基準が説明された。



シナリオ5/6：不明確な重複または明らかな相違

シナリオ5は、他のタクソノミーで位置づけするのが非常に困難な活動の場合だよ。例えば、EUには埋め立て地の基準が含まれているけど、中国版には埋め立て地は含まれていないんだ。シナリオ6は、明らかな差別化があった活動の場合だね。シナリオ5と6の両方の活動がCGTから除外されたよ



了解。気候変動についてCGTはどう整理しているの？



この報告書に付随する現在の気候変動CGTは、7つのセクション、6つのカテゴリー、55の活動(79以上の分析)で構成されているんだ。残りの24の活動は、評価保留中だよ



セクション	カテゴリー	活動
A.農業、林業、伐採	A1. 林業と伐採	4
C.製造	C1. 低カーボンフットプリント材料の製造	3
	C2. クリーンエネルギー技術の製造	11
	C3. クリーンエネルギー車と部品の製造	2
	C4. リサイクル機器の製造	3
	C5. 省エネ機器の製造	15
D.電気、ガス、蒸気、	D1. 発電、送電、配電	9
	D2. 蒸気および空調供給	8
E.上下水道、廃棄物管理、	E1. 下水汚泥処理	1
	E2. 廃棄物の収集、処理、リサイクル	7
F.建設	F1. 建物の建設と改修	2
	F2. 交通インフラの建設	4
	F3. 電気、配管、その他の建設設置活動	3
H.輸送と保管	H1. 鉄道を含む陸上輸送	5
X.その他	X1. CO2の地下永久地質貯留	2
	X2. 水素貯蔵	



各活動について、以下の表形式を使用して、数、名前、説明、基準、関連するEUまたは中国の活動との関連を示す

CGT番号と活動名	CGTの各活動には、そのヘッドラインセクターに応じて番号が付けられている。A1.1は、農林業部門での最初の活動である植林。活動名-シナリオに応じて、中国またはEUの命名法が使用される(例えば、シナリオ2の活動では、通常、EUの命名法が使用される)
説明	活動の対象となる内容の説明-シナリオに応じて、中国またはEUの命名法が使用される(例えば、シナリオ2の活動では、通常、EUの命名法が使用される)
実質的な貢献基準	活動範囲技術的スクリーニング基準の説明
その他の注意事項	EUおよび/または中国の分類法における関連する活動内の参照番号を提供する。一般に、シナリオ2の場合(つまり、EU基準が適用される場合)、追加の注記は、それが中国にどのように位置づけされているかを示している。あるいはその逆である
重複シナリオ	調査中に割り当てられたシナリオを提供する

じゃあ、次は産業間の調整について教えて





CGT分析は、国際標準産業分類 (ISIC)、Rev. 4
の6つのセクションをカバーしているよ



A. 農業、林業、漁業 C. 製造 D. 電気、ガス、蒸気、エアコン
E. 水供給; 下水、廃棄物管理・修復活動 F. 建設 H. 輸送と保管



これは、EUタクソノミーの下での気候緩和基準内の
87の活動、および中国タクソノミーの下でカバーさ
れる94の気候緩和活動と比較されるよ。でもこれら
の表は、重複を完全に網羅しているわけではないよ

留意することは？



現在、演習の技術的な複雑さを考えると、EUタクソノミー
の重大な危害を行わない基準はCGTの範囲内でカバーされて
いないんだ。これは将来の作業領域になると思うよ

ほかには？



最小限の保護が両タクソノミーで使用されているけど、タ
クソノミー全体で均一ではなく、簡単に比較できないね。
EUタクソノミー規則の第18条に基づき、経済活動は、以下
との整合性を含むがこれらに限定されない最低限の社会的
セーフガードの要件も満たさなければならないよ



- OECD多国籍企業ガイドライン、
- ビジネスと人権に関する国連指導原則
- 労働における基本的原則と権利に関する国際労働機関 (ILO) の宣言とその8つの基本的条約
- 国際人権規約



中国は、関連する国内の政策と基準を参照して、最低限の保障措置を講じてる。産業・企業のための衛生基準や労働安全検査に関する規則を含むこれらの要件の焦点は、環境、健康、安全(EHS)にある

なるほどね。「適応」関連の活動は？



CGTの下でEUの適応目標をカバーするためにいくつかの試みがなされたけど、難しいことが証明されており、その結果、この分野でより多くの作業が必要となるね



EUタクソミーに基づく気候変動適応目標の技術的スクリーニング基準は、気候変動緩和基準の場合と同じ方法で、NACEコードごとに指定されるんだ



中国版では、タクソノミー自体に適応基準として指定された基準はなく、一般的に、中国版は、気候変動の目的の一部として気候緩和に重点を置いている。ただし、適応要素が組み込まれている地域の法令、基準、規制がいくつかある。評価する必要のあるコードの数が非常に多いため、今回の報告書ではそれら进行评估することができなかった。EU基準では、適応基準は活動間で非常に類似しており、プロセスベースであるため、本質的に定性的にとどまる

CGTは使いやすいの？



現在のCGTは、両者のタクソノミーの特定の機能に共通する根拠を評価するための出発点なんだ。ローカル標準を世界中の分類法の分析に簡単に使用できる基準に変換するために最善の努力が払われているけど、使いやすさを向上させる努力はまだ必要だ



次は、分析の使いやすさに対するいくつかの課題の概要を説明しよう



EUと中国だけでなく、独自の分類法を組み合わせて持続可能な金融分類法の開発を検討する分類法ベースのアプローチを追求しようとしている国や地域にも適用する

地域の法律/規約の参照



CGTが他の法律を参照している分野-例： 欧州の指令と中国の基準では、これらを他の法域での分析に役立てるために、より多くの作業が必要になる

データの可用性を向上させる



一部の活動では、世界中に存在するわけではないデータの可用性に依存する基準を指定している。例えば、エネルギー性能証明書はEUの標準ですが、世界中で広く利用できるわけではない

指標の比較方法を理解する



一部の活動は定量的な閾値を指定するけど、他の法域では一般的に使用されていない基準を使用する。例えば、発電は、管轄区域間で比較可能で標準化された基準を持っている。ただし、建設等の部門を比較して管轄区域間で位置づけることは非常に困難で、データの可用性も異なる。いくつかの建築基準法と規制はエネルギー消費量の測定基準を利用し、他の建築基準法は建物の外皮の基準を持ち、他の建築基準法は排出量を使用する。EUタクソノミーで使用される一次エネルギー需要(PED)は、他の法域では一般的に使用されていないが、ほとんどの場合、エネルギー消費量及びGHG排出量と良好な相関関係が認められる。現在、CGT分析では、同じ目的（建物からの排出量の大幅な削減）を満たしていても、他の指標を使用することはできないんだ

動的に進化する



タクソノミーは、テクノロジーの開発に追随する生き文書であり、対象範囲を拡大する可能性がある。したがって、CGTを最新の状態に保つために、CGTの定期的な改訂が必要だ

今後のCGTで考慮することは？



CGTの今回の場面では、両タクソノミーの詳細な分析を示した。欠落している他の領域は、将来やってみるかもしれない

追加の部門



第2.1.2章で述べたように、セクターは両者のGHG排出量に基づいて優先順位が付けられ、サービスやICTなどのセクターはこのバージョンではカバーされていない。これらは、両タクソノミーをより広範囲にカバーするために、将来、繰り返して分析できるだろう

追加の環境目標と移行に関する考慮事項



EUは他の環境目標をカバーするための基準を提示しているので、これらは将来の作業のために分析される。中国版は、他の環境目標をカバーしている。すでに説明したように、適応はEUでカバーされているが、評価を提供するために分析する必要がある地域の規制の幅が広いため、中国版で評価することは困難だった。これは将来の作業の領域になる可能性がある。G20の持続可能な金融統合報告書とロードマップで指摘されているように、持続可能な金融の分類法は、移行活動をさらに認識するために適応される可能性がある。分類法が進化して移行に関する考慮事項が増えるにつれて、CGTも変わる

既存の活動における新しい連携分野



位置づけの調整が困難な一部の活動では、考えられる共通点を理解するために、さらに調査作業を行う可能性がある。将来の作業には、移行に関する考慮事項も組み込まれる可能性がある

その他の適格性機能



前述のように、DNSHと最小限のセーフガードは、現在、この演習の範囲内で明示的に分析されていない。これらの機能と基準は、両者間の比較と相互運用性を強化することは可能だ

その他の管轄区域



タクソノミーが他の法域で確定されるため、タクソノミーに基づくアプローチを追求することを意図している他の法域をこの分析に追加することはできる

EUと中国以外も比較できるようにできるかな？



両タクソノミーは、分類法に関するガイダンスが限られていたとき、または市場で分類法という言葉が定期的に使用されていたときに、それぞれ独自に開発されたんだ



グローバルなタクソノミーの開発と管轄区域全体の既存のガイドラインに関する豊富な情報と専門知識がある。現在、世界20以上の国と地域が独自のタクソノミーを開発中であるか、コメント用のバージョンをリリースしているよ。CGTの作業が開始されてからも、状況は劇的に変わったね



提示された内容と方法論は、世界中の分類法の将来の相互運用性を促進するための貴重なツールを提供する。その分析は、グリーン資産を評価するための共通言語を促進するために分類法に基づくアプローチを追求することを意図している法域によって使用および参照することができる。CGTの分析方法論は、時間の経過とともに分類法を開発する新しい管轄区域を組み込むために、包括的かつ柔軟になるようにも設計されているね



したがって、ここで紹介するCGTはほんの始まりに過ぎません。IPSFは、現在17のメンバーを含むメンバー組織であり、そのうち少なくとも7つが国または地域の分類法の開発を積極的に検討しています。ワーキンググループは、新しい分類法が利用可能になったときに、CGTに組み込むことを検討する予定ですが、ワーキンググループはこれを行うためのプロセスの時間枠をまだ確立していません。

G20持続可能な金融ワーキンググループへのIPSFUNDESAイン
プットペーパーによって概説されたタクソノミーがあったよね



確かに、G20 SFWGの報告で、IPSFとUNDESAは、
「投資を特定し、検証し、持続可能性の目標に合わせるためのアプローチの互換性を改善する」に関するインプットペーパーが発行されたね



この報告書は、投資を特定し、持続可能性の
目標に合わせるための一貫したアプローチを
開発するための管轄区域と市場に関する次の7
原則について説明しよう

原則1：SDGsを支援するために積極的に貢献する。

投資を定義や分類法などの持続可能な目標に合わせるためのアプローチは、環境、気候、生物多様性、社会的目標など、17の持続可能な開発目標の少なくとも1つに積極的に貢献することを目的とすべきである



原則2：重大な危害を加えないでください。

定義や分類法を含む持続可能な目標に投資を合わせるためのアプローチは、選択された活動が他のSDGにプラスの貢献をしたとしても、これらのアプローチによって特定された活動が17のSDGのいずれにも重大な害を及ぼさないことを保証する必要がある。同調アプローチが実施のプロセスを含む限り、ある目的へのプラスの貢献が他の環境的および社会的目的へのマイナスの影響を上回らないようにするためのセーフガードも導入する必要がある



原則3：科学に基づいていること。

定義や分類法など、投資を持続可能な目標に合わせるためのアプローチは、本質的に客観的であり、利用可能な最良の科学と一致し、国際的に相互運用可能な明確に定義および開示された指標と閾値によって支援される



原則4：ダイナミックであること。

定義や分類法など、投資を持続可能な目標に合わせるためのアプローチは、市場の変化とグリーンで持続可能な技術の開発、および国内および国際的な政策課題と優先順位の変化を反映するために定期的に見直され、更新される必要がある



原則5：透明性と検証を行う。

定義や分類法など、投資を持続可能な目標に合わせるためのアプローチは、以下に依存する必要がある

- (i) 持続可能な投資の機会を特定するための透明で堅牢な方法論(プライベートデータプロバイダーからのものを含む)
- (ii) 持続可能な投資商品および戦略をマーケティングする投資運用会社およびファイナンシャルアドバイザーによる適切な開示
- (iii) 独立した検証メカニズム



原則6：SDGsのより完全な範囲を含む。

定義や分類法など、投資を持続可能な目標に合わせるためのいくつかのアプローチは、最初は気候に焦点を当てて開発されているため、環境、生物多様性、持続可能な社会的側面など、SDGsの他の側面を含めるように時間の経過とともに対象範囲を拡大する必要がある



原則7：包括的な評価を作成する-定義や分類法など、投資を持続可能な目標に合わせるためのアプローチでは、運用活動とバリューチェーンおよび製品とサービスの使用の両方から、投資先企業の活動の全体的な影響を考慮する必要がある



付録：持続可能な金融タクソノミーを国や地域別及び項目別に表示（IPSF-UNDESA入力用紙からの抜粋）

国/管轄	プレイの状態	目的	現在のカバレッジ/ 粒度	使いやすさ	同調/適格性への接近
中国	使用中 PBC、NDRC、および中国証券監督管理委員会（CSRC）からリリースされたグリーンボンド承認プロジェクトカタログ（2021年エディション）	i 環境改善 ii 気候変動への取り組み そして iii より効率的な資源利用	6レベルの業界カテゴリ： 1.省エネおよび環境保護産業 2.よりクリーンな生産産業 3.クリーンエネルギー産業 4.エコ環境産業 5.インフラストラクチャのグリーンアップグレード 6.グリーンサービス	グリーンボンド発行義務	ホワイトリスト 0,1（グリーン/グリーンではない） 管轄の規制当局によって設定された業界固有のグリーン基準および基準にリンクされた活動
EU	従うべき追加の委任された行為を伴う規制	(i) CCM (ii) CCA (iii) 水と海洋資源の持続可能な利用と保護 (iv) サーキュラーエコノミーへの移行 (v) 汚染の防止と管理 (vi) 生物多様性と生態系の保護と回復	NACEコード（UN ISICコードから派生したEU業界分類）に基づく分類法 追加のNACEサブカテゴリを含む9つの幅広いカテゴリ 選択されたセクター内の活動7セクター： 1 農林業： 2 環境保護と修復活動： 3 製造業： 4 エネルギー： 5 水と廃棄物： 6 輸送： 7 建物： 8 ICT&9 専門サービス分類法は、上場企業の約40%の経済活動を対象としている	EU加盟国、大企業および金融市場の参加者に必須な場所： グリーン投資ファンド（例：リテールファンドやグリーンボンド）の参照として使用される分類法開示に使用される分類法（例：投資家や大企業が分類法に沿った投資/活動のシェアを開示する）	技術的スクリーニング基準「重大な危害を加えない」原則最小限の社会的セーフガード移行および活動を可能にする余地
日本	使用中 2021年5月に発表された気候変動ファイナンスに関する基本ガイドライン開発中の経済産業省は、部門固有のロードマップを策定するためのロードマップタスクフォースを設立した	排出量の多い企業/部門の移行経路に焦点を当て、移行金融ラベルの信頼性を確保する	2050年までのカーボンニュートラルへのロードマップは、基本ガイドラインの添付ファイルのとおり。2021年に発表される対象部門には、鉄鋼、化学、電力、ガス、石油、セメント、紙/パルプが含まれる	リリースされたガイドラインは法的拘束力がない	今後のケーススタディと部門の業界移行経路を含む原則基盤のガイドライン

国/管轄	ブレイの状態	目的	現在のカバレッジ/ 粒度	使いやすさ	同調/適格性への接近
南アフリカ	ドラフト発表 2021年6月にパブリックコンサルテーション	初期カバレッジ：(i)CCM、 (ii)CCA 将来の報道： (iii)持続可能な使用と水の保護と 海洋資源 (iv)持続可能な資源の使用および 循環性 (v)汚染予防 (vi)生態系保護と復元	SICコードに基づく： 1.農業、林業、水産業および土地利用； 2.業界； 3.エネルギー； 4.水と廃棄物； 5.輸送； 6. ICT； 7.建設；活動、システムの回復力、革新 を可能にする。 8.社会的レジリエンス	TBC、おそらくすべての金融商品	技術的スクリーニング基準 「重大な害を及ぼさない」原則 移行の余地と活動の可能性
ロシア	2020年12月に公開されたドラフト ロシアの「グリーンファイナンス ガイドライン」の一部	(i) 環境改善； (ii) 汚染の削減。 (iii) 温室効果ガスの削減。 (iv) エネルギー効率の向上。 (v) CCA	分類法は、9つのセクターをカバーして いる 1.廃棄物管理とリサイクル、 2.エネルギー、 3.建設、 4.工業生産、 5.輸送、 6.給水および廃水処理、 7.林業、 8.自然景観と生物多様性の保全、 9.ICT	政府の金融商品ではない金融商品	ホワイトリスト金融商品のグリーン 認証を取得するための必須の検 証
カザフスタン	開発中のカザフスタンの新環境法 は、2021年7月に発効する予定で あり、これにはグリーン技術の定 義、グリーンファイナンス、グ リーンプロジェクト、グリーンプ ロジェクトの分類（分類）、グ リーンボンド、グリーンローンが 含まれる	TBC	TBC	グリーンボンド、ローン、テクノ ロジー、プロジェクト等のグリー ン金融商品をカバーすることが期 待されている グリーン技術とプロジェクトの登 録簿-グリーン技術とプロジェクト に関する情報を収集するデジタル データベースが含まれる	技術を「グリーン」技術として認 識するための規則は、技術とプロ ジェクトをグリーンとして認識す るための手順、グリーンタクソ ミーに従ったグリーン活動の検 証、サービスオペレーター機能 の概要を示す

国/管轄	プレイの状態	目的	現在のカバレッジ/ 粒度	使いやすさ	同調/適格性への接近
韓国	ドラフトは、韓国語でパブリックコンサルテーションのために公開された「K-taxonomy」ドラフトを公開した	(i) CCM、 (ii) CCA、 (iii) 持続可能な水の保全、 (iv) サーキュラーエコノミー、 (v) 汚染防止管理、 (vi) 生物多様性の保全	9つの主要なカテゴリーで53の活動： 1.エネルギー 2.製造 3.都市と建物 4.輸送 5.資源循環 6.CO2回収 7.水 8.生物多様性と農業 9.研究と教育	韓国のグリーンボンドガイドラインに従って選択されたグリーンプロジェクトに適用することを勧める。 最初にグリーンボンドに適用され、次にグリーンローンとグリーンファンド等、他のグリーン金融活動に適用されることが期待されている。 分類法は、個々の資産の持続可能性を評価したり、企業の持続可能な資産の割合を開示したりするために、任意の実体または金融機関によって使用される場合もあることに注意するように。	EU分類と同様の構造、実質的な貢献+ DNSH + 最小限の保護手段 除外基準も含まれている
モンゴル	承認されたモンゴルのグリーンタクソミー	(i) CCMおよびCCA、 (ii) 汚染防止、 (iii) 資源保護、および (iv) 生計向上 それは、その全体的な目的の1つとして生計の改善を含み、タクソミーに社会的要素を追加する	8つのセクターから58の活動をカバーする 8つのセクターのカテゴリーは次のとおり 1.再生可能エネルギー； エネルギー効率； 2.汚染の防止と管理 持続可能な農業、土地利用、林業、生物多様性保全、エコツーリズム 低汚染エネルギー；緑の建物； 持続可能な水と廃棄物の使用； きれいな輸送	このタクソミーは、ローン、債券、株式投資、保険など、幅広い金融商品に適用されるように設計されている。 グリーン金融商品の適格性を超えて、銀行がエクスポージャーを報告したり、中央銀行がグリーンローン市場の発展を追跡する	ホワイトリスト投資目的で環境的に持続可能と見なされる活動のリストを規定し、技術的基準を提供しない
インド	開発中フェーズ1は2021年に完了する予定 (*インドにはグリーンボンドのガイドラインがあるが、これらは詳細なタクソミーとは別のものである)	議論中	議論中	議論中	議論中
スリランカ	開発中、IFCの技術支援を受けたスリランカ中央銀行2021年第4四半期に詳細情報が見込まれる	TBC	TBC	TBC	TBCはおそらく中国とEUのタクソミーの要素を利用するだろう

国/管轄	プレイの状態	目的	現在のカバレッジ/ 粒度	使いやすさ	同調/適格性への接近
バングラデシュ	バングラデシュ銀行（BB）は、2020年12月に銀行および金融機関向けの持続可能な金融政策を発表した。 開発中：グリーンボンドタクソノミー（まだ未公開）	既存： (i) CCM、 (ii) CCA、 (iii) 水と海洋資源の持続可能な保護、 (iv) サーキュラーエコノミーへの移行、廃棄物の防止とリサイクル、 (v) 汚染の防止と管理、 (vi) 生物多様性と健全な生態系の保護と回復	既存： 1.再生可能エネルギー、 2.エネルギー効率、 3.代替エネルギー、 4.廃棄物、 5.リサイクル、 6.グリーンブリック生産、 7.開発中のグリーンビルディング： EUの分類学セクターの適用範囲と一致する可能性が高い	既存 これは、銀行やFIが持続可能な融資を行い、持続可能な投資を行うことを奨励および監督するために使用される。 グリーン商品/プロジェクト/イニシアチブのリストは、グリーンファイナンスの借り換えスキームの下で銀行資産をBBで借り換えることができるかどうかの適格基準としても使用される。 開発中将来の分類法の必須の性質はまだ確認されていない。	既存： 1.環境目標に大きく貢献する必要がある+ 2. DNSH + 3.最小限の社会的及びガバナンスの保護手段 適格性が適格なグリーン製品/プロジェクト/イニシアチブのリストが提供されるホワイトリストアプローチを使用して定義されることを除いて、高レベルでEUと同様である。おそらく地域の状況と同期している適格なプロジェクトのリストであり、銀行とFIの持続可能性と環境問題についての幅広い認識を生み出すはずである。 また、開発中の資金調達と持続可能な資金調達に不適格と見なされる経済活動の2つの除外リストを提供する。それぞれTSCアプローチを使用する可能性がある。
アセアン諸国	ASEAN中央銀行協会は、持続可能な金融のための多層ASEANタクソノミーを開発、維持、促進するためにASEANタクソノミー委員会を設立した。 現在、タクソノミーの最初の反復に関する作業が進行中であり、2021年11月にグラスゴーで開催された国連気候変動会議で発表される予定である	気候緩和と移行目標が含まれる可能性はある	TBC	開発中 ASEANタクソノミーは、すべてのASEAN加盟国がそれぞれの国の持続可能性イニシアチブを補完し、持続可能な金融のためのASEANの共通言語として機能するための包括的なガイドとなる	TBC
インドネシア	開発中	TBC –環境目標の点でEUと同等である可能性が高い	TBC –経済分類の点でEUと同等である可能性が高い		技術的スクリーニング基準（TBC）「グリーン」と「グリーンに向けて」の2つのカテゴリー。 国の目的と能力を反映するための閾値

国/管轄	プレイの状態	目的	現在のカバレッジ/ 粒度	使いやすさ	同調/適格性への接近
アセアン諸国	ASEAN中央銀行協会は、持続可能な金融のための多層ASEANタクソミーを開発、維持、促進するためにASEANタクソミー委員会を設立した。 現在、タクソミーの最初の反復に関する作業が進行中であり、2021年11月にグラスゴーで開催された国連気候変動会議で発表される予定である	気候緩和と移行目標が含まれる可能性がある	TBC	開発中 ASEANタクソミーは、すべてのASEAN加盟国がそれぞれの国の持続可能性イニシアチブを補完し、持続可能な金融のためのASEANの共通言語として機能するための包括的なガイドとなる	TBC
インドネシア	開発中	TBC-環境目標の点でEUと同等である可能性が高い	TBC-経済分類の点でEUと同等である可能性が高い		技術的スクリーニング基準 (TBC) 「グリーン」と「グリーンに向けて」の2つのカテゴリー。 国の目的と能力を反映するための閾値
ベトナム	開発中 2021年末を予定	TBC	エネルギー、輸送、水、建物、土地利用および海洋資源、産業、廃棄物、ICT ベトナム標準産業分類の使用 (VSIC)		技術的スクリーニング基準 (TBC) 経済活動がベトナムの気候変動経路と整合しているかどうかを判断するための、EUと同等の指標及び閾値の可能性はある
フィリピン	開発中 フィリピン証券取引委員会および中央銀行とのグリーンエージェンシー間タスクフォースは、タクソミーを開発するプロセスを開始した	TBC	TBC		
マレーシア	公開済み 2021年4月に発表された気候変動と原理に基づくタクソミー (CCPT)	5指導原則 (GP) : (1) CCM (2) CCA (3) 環境に重大な害はない (4) 移行するための是正措置 (5) 禁止されている活動	原則1と2は活動レベルで適用可能だが、3と4は 実体レベルで適用可能である必要がある	金融機関に適用され、資金調達された活動は (i) 気候支援 (GP1から3を参照) (ii) 移行 (GP4) または (iii) ウォッチリスト これにより、気候関連の曝露の標準化された報告が容易になる	原則ベースのタクソミーは、5つの原則に、それぞれの下でのどのタイプの投資が適格であるかに関する例を示す。 このリストは網羅的ではない

国/管轄	プレイの状態	目的	現在のカバレッジ/ 粒度	使いやすさ	同調/適格性への接近
ベトナム	開発中 2021年末を予定	TBC	エネルギー、輸送、水、建物、土地利用 および海洋資源、産業、廃棄物、ICT ベトナム標準産業分類の使用 (VSIC)		技術的スクリーニング基準 (TBC) 経済活動がベトナムの気候変動経路と整合しているかどうかを判断するための、EUと同等の指標及び閾値の可能性はある
フィリピン	開発中 フィリピン証券取引委員会および中央銀行とのグリーンエージェンシー間タスクフォースは、タクソノミーを開発するプロセスを開始した	TBC	TBC		
マレーシア	公開済み 2021年4月に発表された気候変動と原理に基づくタクソノミー (CCPT)	5指導原則 (GP) : (1) CCM (2) CCA (3) 環境に重大な害はない (4) 移行するための是正措置 (5) 禁止されている活動	原則1と2は活動レベルで適用可能だが、3と4は 実体レベルで適用可能である必要がある	金融機関に適用され、資金調達された活動は (i) 気候支援 (GP1から3を参照) (ii) 移行 (GP4) または (iii) ウォッチリスト これにより、気候関連の曝露の標準化された報告が容易になる	原則ベースのタクソノミーは、5つの原則に、それぞれの下でどのタイプの投資が適格であるかに関する例を示す。 このリストは網羅的ではない
シンガポール	開発中	提案された4つの目的： (i) CCM; (ii) CCA; (iii) 生物多様性を保護する (iv) 資源の回復力を促進する	ISICセクターとサブセクターがカバーされている 提案されたセクター： 農業、建設および不動産、輸送、エネルギー、産業。 追加の有効化セクターには、廃棄物、ICT、CCSが含まれる場合がある	金融業	原則に基づく基準と、「信号機システム」を介した活動の定量化が可能な閾値の組み合わせ。 緑 (明確に整列)、黄色 (緑になるための経路を持つ活動)、および赤 (タクソノミーと矛盾する活動)。 信号機システムの概念的枠組みは、2021年1月に発行された協議文書に示され、現在、詳細な基準が開発されている。 その他の適格性機能： a) 重大な危害を加えない b) トレードオフが長期的に正当化されない限り、コミュニティの社会的および経済的幸福に悪影響を及ぼさない c) 地域の法律および規制に違反していない

国/管轄	ブレイの状態	目的	現在のカバレッジ/ 粒度	使いやすさ	同調/適格性への接近
台湾	議論の中でグリーンタクソミーを開発するための作業計画が開始された			金融業	
コロンビア	ドラフト中	7つの目的： (i) CCM; (ii) CCA (iii) 水と海洋資源の持続可能な使用と保護 (iv) 循環型経済への移行 (v) 汚染の防止と管理 (vi) 健全な生態系の保護 (vii) 社会/ SDG	8 大まかな分類	グリーンラベルの金融商品	自主的 TSCが提案した認証メカニズムについては議論されていない その他の適格性機能：最小限の安全対策とDNSH
チリ	議論中 2021年に公開されたチリのタクソミーロードマップ	気候の緩和、適応、その他の環境目標の可能性	取り組むべき優先業種は、エネルギー、運輸、建築、および産業（鉱業）である		EUタクソミーを活用する可能性がある タクソミーの種類：技術的なスクリーニング基準の可能性
メキシコ	議論中	6つの要素が含まれている： 原則、基準、方法論、運用およびガバナンス メカニズム、レポートフレームワーク、および拡散メカニズム			
ドミニカ共和国	開発中				
英国	開発中 グリーンテクニカルアドバイザーグループ（GTAG）が発表	GTAGは、英国政府に、英国の目的にEUタクソミーを適応させる方法に関する拘束力のないアドバイスを提供する	TBC EUのアプローチに基づいている可能性がある	TBC	TBC-おそらくEUによるTSCアプローチに基づく
ニュージーランド	ドラフト中 利害関係者のフィードバックを求めて2020年12月に公開	持続可能な農業（SAFI）	農業のみ	農業融資と投資を検討する際に金融セクターによって使用される	同等性を追求し、国際基準と国内基準のギャップを埋めることを目的としている
オーストラリア	議論中 民間セクター主導のイニシアチブ				自主的（EUタクソミーを活用している可能性が高い）

国/管轄	プレイの状態	目的	現在のカバレッジ/ 粒度	使いやすさ	同調/適格性への接近
カナダ	開発中 業界主導（規制の枠組みに接続されていない/政府の政策文書ではない）	移行に焦点を当てた分類法 (27)、特にGHG排出量の削減	パートI：移行の定義、原則、および詳細な企業開示要件。 パートII：8つのセクター固有の移行タクソミー： (i) エネルギー (ii) ユーティリティ (iii) 農業 (iv) 林業 (v) セメント (vi) 鋼 (vii) アルミニウム (viii) 鉱物採掘	移行ベースの金融商品（債券およびローン）に適用される可能性が高い	自主分類ツール () 活動ベースおよび補助活動ベース： EU、CBI、ICMAと連携している
CBI Taxonomy	使用中	(i) CCM (ii) CCA	産業分類コードへの参照はない CBIタクソミーでは、8つのカテゴリ（エネルギー、水、輸送、建物、土地利用と海洋資源、産業、廃棄物、ICT）があり、適格な資産とプロジェクトの45のサブカテゴリがある	認定された気候ボンドでは、タクソミーの使用が必須である	「信号機」：緑（自動的に適格）、オレンジ（適格基準に従う）；と赤（対象外） 適格性に関するCBIのガイダンスは、そのタクソミーを超えている。 債券の認証を希望する発行者は、セクター基準、気候レジリエンス原則、および気候移行原則（該当する場合）に詳細に準拠する必要があります

国/管轄	プレイの状態	目的	現在のカバレッジ/ 粒度	使いやすさ	同調/適格性への接近
MDB-IDFC の共通原則	2015年から使用中- 2021年に更新 され、2021年1月からMDBによっ て使用中 mdb_idfc_mitigation_common_p rinciples_en.pdf (eib.org)	(i) CCM (ii) CCA	表2：エネルギー 表3：気候変動対策のための鉱業と金属 生産 表4：製造 表5：農業、林業、土地利用および水産 業 表6：給水と廃水 表7：固形廃棄物管理 表8：輸送 表9：建物、公共施設、および最終用途 のエネルギー効率 表10：情報通信技術（ICT）とデジタル テクノロジー 表11：研究、開発、革新 表12：部門横断的な活動	主に開発銀行間で一貫した方法で 気候資金の監視と報告に使用さ れ、OECD、UNFCCC金融常任委員 会などに報告する	記述的適格性：共通原則は、CCM 及びCCA関連の資金調達定義を 導入する。適格な活動の網羅的な リストに含めることは説明的であ り、多くの定性的基準が含まれて いるが、定量的な緑の閾値の対象 ではない。CCMの共通原則には、 原則のバックストップを備えた高 レベルの「移行」関連のプロジェ クト/活動が含まれる。カーボン ロックインの回避、グリーン技術 への長期的な構造シフトの重要 性、生涯前の古い技術の置き換え （エネルギー効率におけるグリー ン分野とブラウン分野の投資の区 別）等。 2021年の共通原則は、2年間で運用 される。2年間の期間末に、MDB とIDFCは、必要に応じて、それ ぞれの経験に基づいてリストを調整 する。適格な活動のリストは、経 済活動のより深い脱炭素化を可能

27 IIACレター、2021年のカナダ移行債券市場における分類の進展と発行の可能性

(https://iiac.ca/wp-content/uploads/Taxonomy-Developments-and-Issuance-Potential-in-Canadian-Transition-Bond-Markets-in2021_February-2021.pdf)

おしまい

